



## 8期生 インターン研修を経て活動開始へ

2019年10月から12月に開催した「チャイルドラインこうち第8期受け手養成講座」を修了した受講者の皆さんのインターン研修を、1月から3月にかけて実施しました。

インターン研修は、チャイルドラインこうちの電話開設の場に参加し、子どもからの電話を直接受け、支え手とともに振り返るもので、1人あたり原則3日実施しました。

インターン研修を修了した6人の方は、今後、チャイルドラインこうちの新たな受け手として、ともに活動していきます。

私がチャイルドラインの活動を始めるに当たっての抱負として、1人でも多く、子どもたちの手助けになりたいと思います。私は、過去、人との関わりで苦悩していましたが、人に助けられたからこそ、誰かの手助けになりたいと考えたからです。

今回の受け手養成講座では、講師による子どもへの対応の体験談や理論などが学びました。そして、インターン研修では、子どもの悩み相談に対応する中で、困惑や緊張を伴いましたが、養成講座で学んだことを活かし、子どもの悩み相談に対応することができました。

受け手養成講座を受講して1番感じたことは、高知県だけでもこんなにも子どもたちのために動いている方がいるのだと驚いたことです。チャイルドラインは子どもたちにとって、話しにくい事を話せる人が身近にいない時に繋いでくれる凄く良いものだと思います。

ですのでチャイルドラインを始める抱負として、1つ1つの電話を大事にすることです。子どものために尽力しようとする方々と協力しながら、子どもたち1人1人に真摯に向き合っていこうと思います。

全講座参加させていただきましたが、どれも現場の声、今の状態が分かり、素晴らしく、時間が過ぎるのを忘れるほどでした。実際にインターンをさせていただいたのはまだ数回ですが、いろいろな内容があり、驚くこともあります。

顔が見えない、相手と初めて話す、状況がわからないという中で話をするということが今まであまりなかったのですが、「話しをしたいという子どもの気持ちを受け止める」「主を子どもにし聴くに徹する」ことの大切さをあらためて感じました。また、チャイルドラインを始めようとし、継続している方々の思いの熱さを感じました。

できることは少ないかもしれませんが、微力ながら力になればと思います。これからも参加させていただきます。ありがとうございました。

## 受け手継続研修を開催

受け手の活動をしている活動会員を対象とし、受け手継続研修を定期的に開催し、活動に役立てています。

1月19日（日）に本年度第3回目の研修を開催し、10名の参加がありました。研修では、日頃の受け手の活動の振り返りをするとともに、電話の聴き方のスキルアップを学び合いました。



### <参加者同士の意見交換の主な内容>

- 子どもが「死にたい」と発するとき、なぜその言葉を言いたくなくなっているのか、に耳を傾けるようにしている。
- 子どもの性の電話が多いが、なぜ子どもはチャイルドラインに性の電話をしにくるのか。周りの人に言いにくいけど、顔が見えないことで電話しやすいなど、考えてみることも大切。
- 子どもは言いたいことが言えない。
- 受けた言葉の一部を繰り返すということは、聴くということの基本中の基本。日常的にはどうしても自分の話に置き換えてしまうこともあるが、チャイルドラインでは、耳を傾け「そうなんだ」「そうだね」と言葉を返すことは大事である。
- 子どもが間違った行動をしたときには、咎めるのではなく、それは良くないことだと思うんだけど、君はどう思う？ と返すことも方法の一つ。

## ご寄付のお礼 (2020年1月～2月)

ご寄付をいただいた皆様をご紹介します。皆様のご理解とご支援に感謝申し上げます。

### <企業・団体の皆様>

○(株)中島工務店 様	30,000 円			
○太平洋学園高等学校PTA 様	30,000 円			
○田村こどもクリニック 様	10,000 円			
○(医)島崎健やか会 様	10,000 円			
○医療法人めばえ 様	10,000 円			
○(株)Climb the steps 様	1,000 円	(寄付つきメニューより / 1～2月分)		

### <個人の皆様>

市原直子 様	岸野和貴子 様	森澤豊 様	澤田由紀子 様	増本徳 様
佐竹幸重 様	尾木さおり 様	澤田敬 様	坂井ひろ子 様	ほか匿名1人

本会の活動・運営は、会員の会費、皆様の寄付等により成り立っています。今後ともよろしくお願いいたします。

### ◆会員数 (2020年3月1日現在)

活動会員 59人  
支援会員 37人・団体